

文化財論ゼミ／杉山 雄朗(学生の声)

Ⅰ はじめに

考古資料をはじめとするさまざまな有形文化財の健康診断と保存修復を実践しながら、現代社会における文化財の継承と活用とはどうあるべきかを考えます。

Ⅱ モノに触れて時代を探り 知られざる歴史を紐解く

貴重な文化財を見学したり、時には実際に触れて調査や研究をできるのが文化資源学コースの魅力です。私の所属する文化財論ゼミでは、遺跡の出土品や墓跡などの「モノ」を解読し、そこから人の歴史を読み解いていきます。歴史上で活躍した人物は記録に残りますが、私たちの研究では名も残らないような庶民の歴史を探っています。墓跡に刻まれた名前や年代、形や大きさを調べれば、その人の身分や当時の時代背景が見えてきます。別々の墓石から家族関係などがわかることも。先人たちの歴史を明らかにできた時には、とてもやりがいを感じます。

私はサークルには属していないものの、趣味のイラストを描く活動を通して、多くの仲間ができました。4年という大学生活は意外にもあっという間です。ハードでもあります、弘前大学なら充実した日々を過ごせるはずです。